

しかし、たび重なる災害は時には人々を死にいたらしめるほどのきびしいものでした。しかし藩による新田開発などの努力が実り、滝根町は三春藩の内では一番豊かな所としてにぎわうようになりました。

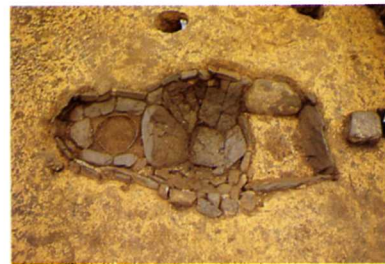
1889年（明治22年）に、菅谷村、神俣村、広瀬村がいっしょになり、現在の滝根町のもとになる滝根村が発足し、1940年（昭和15年）に滝根町となり現在の滝根町が始まりました。その後、釜山の石灰石採石場あと地に鍾乳洞が発見され、1973年（昭和48年）に「あぶくま洞」と名前がつけられ、多くの人が見学できるようになり、観光地としてもにぎわうようになりました。

※ 採集狩猟生活

農業を知らない大昔の人々はドングリやクリ、クルミや山イモ、ユリなどの植物を採集したり、イノシシやシカ、魚などの動物をとらえて生活していた。



縄文時代の土器（大平）



昔の炉のあと（大平）

(2) 町の位置と自然のようす

滝根町は、阿武隈山系のほぼ中央にあり、大滝根山（1,193 m）をはじめ、羽山（970 m）、矢大臣山（965 m）などの谷あいには、ひら